

東日本大震災 関連情報（第16報）

平成23年6月9日
全国老人クラブ連合会

●東日本大震災に関する、老人クラブ関連の情報をお伝えします

1. 芸能大会でみな無事 ～宮城県三陸町 志津川地区老連

津波で大きな被害を受けた志津川地区。地震の時に、地区老連では芸能大会を開催していて、多くの会員が一緒にいました…。その様子を、福祉新聞社（社長は見坊全老連相談役）の記者が老人クラブ会員から聞いてきています。福祉新聞（5月23日）の記事を添付しますのでご覧ください。

●支援活動

○ 地元での支援活動を展開しよう！

福島県老連が全老連中央セミナーで発表したように、福島県から県外への避難者は全都道府県に及んでいます。福島県庁発表の35,000人余（6月8日現在）は、県が把握している人数ですので、個人的に知人等を頼って避難している人を加えると、倍以上になるのではないかとわれています。

中央セミナーでは、宮城県の参加者から「それぞれの地域で避難している高齢者がいたら、ぜひ老人クラブ活動に誘って欲しい」と出されています。実際にそのような動きも出始めています。元気袋がきっかけになるかもしれません。実践を耳にされたら、全老連にもご一報ください。

○ 元気袋情報

1 宮城県老連から、七ヶ浜町老連が、兵庫県豊岡市老連から届いた元気袋を仮設住宅に届けた時の、毎日新聞地元版の記事が提供されましたので添付します。

七ヶ浜町は海に近いところは津波に流されましたが、高台は残っていて、そこに仮設住宅が建設されています。中野町老連会長は「みなに喜んでもらえてよかった」と話されています。

2 京都府老連から、京都新聞に掲載された元気袋作成・送付の記事が届きましたので添付します。福知山市老連から聞いた情報では、市老連を休会しようと思っていた単位クラブの方が「元気袋づくりに関わって、休会の考えが変わった。これはせなあかん。やはり続けるわ」とおっしゃられたそうです。

●「阪神・淡路大震災—老人クラブの活動記録集」から

「被災地と交流する友愛活動」について、続きの2頁を紹介します。

（第13報に続く掲載です。）